

富良野通信 2011 春

<http://furano-harmony.com>

ふらのハーモニーファーム

3月11日に発生した東日本大震災で、犠牲になられた方々に深い哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆様に心よりお悔やみ申し上げます

落ち着きのある好きなおところだった

20代若かりし頃、トラックドライバーとして今回の被災地はほぼトラックで通ったところ。初めて荷を下ろしたのが宮古市だった。女川の水産工場から海産物、塩釜

からは合板を関東に帰り荷したこともあった。いずれの地も風光明媚で魅力を感じたところ。一刻も早い復興を願います。



サクランボ

畑の一角にサクランボの木数十本。昨年の開花の様ですが、この後寒気が入り霜が降りると実は殆ど生らなくなってしまいます。今年はどんな年になりますでしょうか・・・

ちよいと違う路地アスパラ

寒暖にさらされたアスパラは甘みも風味も抜群です。

グリーン・アスパラの作柄にはハウスものと路地ものに分けられます。

富良野当地で4月の今、まさに最盛期なのがハウスアスパラです。

ビニールハウスで保温されたアスパラは風も当たらず極端な低温も受けなため、やわらかくて収穫量も沢山獲れます。長い冬を越した農家にとっても春先最初の収入とあって、近年作付が増加しています。以前は単価も高く、魅力のある作物であったようです。

我が家はメロンの作柄と一緒にするため、労力不足のためハウス物アスパラは作っていません。

だからというわけではありませんが、断然露地物のアスパラの方が美味しいのです。天候に（特に温度・地温）大変左右され、強い霜が降ると地表に出ていたアスパラは冷凍状態、これから芽をだすアスパラも一週間ほど収穫にならないこともあります。ただ、その分根性があると云いますか、寒暖にさらされたアスパラは甘みも風味も抜群です。我が家では収穫当日のものしか発送しませんが、道内は翌日、道外でも2日目にはお届け出来ます。クール便を使いますが、他のアスパラと違い鮮度を保ったままでお客様まで到着して

朝露の一滴にも
天と地が
映っている



いるようです。通年では5月10日 送の日々が続きます。どうかキツ ーイ霜だけはご勘弁願いたい・・・
くらいから約一月間毎日収穫・発 です。

メロンの品種について

昨年の「富良野通信」にてメロンの収穫までご紹介しましたが、我が家でメロンを栽培し始めて今年で18年になります。

当初からここ富良野市山部で特産のメロン品種「キン



グルビー」を作っております。

栽培は難しく、失敗すると商品にならないような品種なのですが、合格点のキングルビーはネット張りも良く大玉、ジックリ熟成させれば香りもたち、メロン風味も濃い本当に美味しいメロンなのです。

栽培技術がある程度に達しないとこのメロンは作ることが出来ません。

そこで当地ではキングルビーの産地として名が知れていたのですが、数年前採種業者が廃業することとなり農協全体の生産組合もこのメロンから撤退することになってしまいました。

ネット検索して見るとキングルビーが如何に素晴らしいかを歌ったサイトが目白押しです。

その後限定的にキングルビーのタネは数年間は私どもに供給される運びとはなりましたが、今後が気がかりとなっています。

今年現在で向う5年分のタネは確保してありますので暫くは皆さま方にお送りすることは出来ます。

今年のジャガイモは

昨年長雨による被害でジャガイモは例年の半作以下でした。芋に水分が多めの「キタアカリ」に至っては2割ほどしか収穫出来ず、畑でそのまま腐敗してしまいました。

ご注文頂いたお客様には大変ご迷惑をおかけしまして、あらためましてお詫びいたします。

天候不順による不作とは言え、畑の水はけや栽培方法など不十分だったかもしれません。

限られた農地でその作物に適した場所に植え付けする



わけですが、ご承知の通りジャガイモは「連作」を嫌います。

数年に一回の割合で作物をまわす「輪作」を実践します。

その中でもジャガイモは地中に育つ作物なので過剰な水分による腐敗には極力神経を使います。

昨年は富良野や中富良野などで標高の低い土地で玉葱畑が完全に水に浸る水害が発生しました。

その時の雨が乾ききれず私どものジャガイモも腐敗してしまっただけで済んだと思われず。

なんでもそうなのでしょうが、ある一定のリスクは想定して対処してありますが、対コスト、対労力でこれまでで精一杯という限界があると思われず。

不作になれば、収入は減りますが、なんとか智恵や労力で乗り切りたいと覚悟はしているつもりですが、不謹慎にも大いなる大自然に憎まれ口をたたくことしきりです。

まだまだ人間が小さいと自覚します。

南瓜でホッと

昨年栗味かぼちゃのセールを致しました。

毎年出荷分に少し余るくらいの量を作付していますが、昨年計算違いと使用資材(マルチ材)が余ったので栗かぼちゃを3割ほど余計に収穫しました。

ある一定の需要に対してそれ以上の供給がされる場合、市場というところは消費者の方々には信じがたいほどの値段で農産物は取引されます。私どもでも豊作だった南瓜は全道でも豊作、供給過剰ということになります。

市場に出しても安いならと昨年はお味見を兼ね、特売として破格値でお送りさせていただきました。

その折、どこかでお役に立てられたらと数件の慈善団体や募金バザーなどに無料でお送りすることが出来ました。

お約束はできませんが、今年もそんな企画が出来たらと考えています。

東日本大震災の被災された方たちにもなにかお役に立てられたらと、これは必ず実行したいところです

落語のマクラに

” 噺家もこれで「バカ」じゃできないですよ～ もっとも利口なら尚やらない” っというのがありましたが、良く思うんです。噺家を農家に替えてもって。

もう 20 年近くなりますが、農家なりたての時分に良く人から訊かれたものです。

なんでまた農家になったの？

あらためて自答してみてもはっきりした答えが出ませんが、ちょっとカッコよく云うとそれなりの哲学があったんです。自然大好き人間がまず思うカントリーライフ、渚やせせらぎの音がどうも苦手な自分は山の懐で暮らす希望があり此処富良野で土をいじって暮らす農業が現実的選択だった。

住んでみれば、この土地を知ることになる。此処はたかだか百数十年まえは未開の原生林だったと訊く。昼なお暗い大木のもと巨大な熊が闊歩していたらしい。その土地を開墾し農地を作り上げてきた先人たちのご苦勞は計り知れない・・・と同時にその農地のため追いやられた先住の獣たち、木々たち・・・の憂いもこの土地に宿る。

切り開いた先人への義務感や追いやられた先住たちへの懺悔感が交錯する。

名義上この畑も田んぼも私に所有権があるが、誰のもでもないと思っている。私がここに住むことでベク

五十時の手習い???

イギリスに留学中の夏目漱石は日本を懐かしんでスコットランドを旅したと云う。

日本でも知られた蛍の光やアニーローリー。

ギターの譜面で” The Water is wide” が好きで、いろんなアレンジで楽しんでいる。

“あなたのチューブ” は便利なもので同じケルト系でアイルランドの” Down By The Salley Gardens”に辿りついた。

インストや歌声もありしみじみ良い曲だとマイ・ふえいぱりっとランクでは現在トップである。そんななか余り高価だとは思えない笛でこの曲を奏でている動画を発見、なんともいえぬ哀愁の音に耳から離れなくなった。

トルが自然環境がプラスに向かうような暮らしがしたいと。

サラリーマンを辞めて富良野にやってきたのが 35 歳。この 35 歳というのがやはり開高せんせの大影響で・・・開高大兄のゴキゲン定番釣行ルポ中の一言が脳天からお尻の穴に抜けた・・・

「人間それなりにいろんな経験してきて、一度今まで生きてきたこと、これからどう生きて行くことになるのか考えるのが 35 くらいじゃないかな・・・そこで自分の一生を決めるんだな・・・生まれ育ちは人それぞれだが、自分の死に場所というか心の故郷を見つけられたらその人は幸せだ・・・たしかこんなことオッシヤッタ

開高先生の言葉にこんなものもある

” 朝露の一滴にも 天と地が 映っている”

” 哲学は、理性で書かれた詩である。あれは詩なんだ。論理と思っではいけない。

詩なんだよ。もう一步つっこんでいうと、詩の文体で書かれた心の数学である。” 「風に訊け」より 読者からの「先生は哲学についてどうお考えですか？」という問いの答え・・・

” もちろん、その理性の詩は感性で裏付けられている。したがって、一度その詩から君が外れてしまうと、いっさいは屁理屈のかたまりにすぎなくなる。

その哲学者の感性および理性の周波数と、君の周波数とが一致したとき、それはみごとなボキャブラリーの殿堂になり、宮殿になり、大伽藍になることもある??? というこっちゃ。”



☆ティン・ホイッスル（ペニー・ホイッスル、または単にホイッスル、英: Tin whistle）は、アイルランド発祥と言われる笛である。もともとブリキを丸めて溶接しただけの単純な造りのため値段も安く、その素朴な音色は広く親しまれている。現在はブリキや真鍮、プラスチックなど様々な材質で製造されている。

この写真のホイッスルはクラーク製1,500円と2,000円ほど、手軽です・・おすすめですよ！

